



学生消防隊の存在意義をアピール

地域防災力と学生消防組織シンポジウム



実践操法を披露する千葉科学大学学生消防隊

地域防災に若者の力をいかに導入したらよいかを考える「地域防災力と学生消防組織シンポジウム」が2月13日、千葉科学大学マリーナキャンパス（潮見町）で開催されました。

日本初の危機管理学部を持つ同大学ならではのこのシンポジウムは、全国でも初の試み。東京都、青森市、松山市など全国各地の防災関係機関や大学関係者が集まり、活発な意見交換を行いました。

パネルディスカッション（討論会）では、銚子市危機管理懇談会の会長で、同大学学生消防隊の監督でもある室井房治さん（写真上・右端）が、「学生が自分の力で意思決定する能力を身につけ、地域の防災リーダーとして活躍するため、学生消防隊は実に良い組織」と話し、その存在意義をアピールしました。

また、討論会終了後に行われた実践操法では、学生たちが日ごろの訓練の成果を披露しました。

年に一度のご開帳

圓福寺・浄国寺 お宝めぐり

県指定文化財など貴重な文化遺産が年に一度だけ特別に公開される「お宝めぐり」が、2月15日に圓福寺（馬場町）で、2月16日は浄国寺（春日町）で行われ、2日間で約300人の見学客が訪れました。

圓福寺では、お釈迦様が亡くなる時（入滅という）の様子を描いた「釈迦涅槃図」（県指定有形文化財）をご開帳。そのほか、水戸黄門でおなじみ徳川光圀の直筆とされる「龍」の文字や、葛飾北斎二世の絵馬「武者組打の図」などもお披露目されました。

浄国寺では、浄土宗を開いた法然上人の掛け軸や、渡辺華山の直筆の墨画帳など、こちらも寺秘蔵の“お宝”を公開。また、境内にある松尾芭蕉や小林一茶の句碑なども案内されました。

今回の「お宝めぐり」は観光キャンペーン「2009早春ちばめぐり」の企画でもあり、案内役は銚子市文化財審議会委員の永澤謹五さんと銚子ボランティアガイド観光船頭会の有志の皆さん。

各会場とも先着100人の方には、永澤さん手作りのテキストが配られ、見学に訪れた方たちは永澤さんらの説明に熱心に耳を傾けていました。



圓福寺 釈迦涅槃図



浄国寺境内で小林一茶句碑の説明をする永澤さん(右から2人目)